



教育学習環境の高度化に向けて 学内の情報システムを全面刷新

NSSOLの「CampusSuite」で教育学習を包括的に支援

背景

教育学習環境の高度化に向けて、ランドデザインを策定し、学内の情報システムを全面的に刷新する。あるべき姿の実現に向け、学生の学習や教員の教育、学内の事務を、最新の製品・技術で効果的に支援したいと考えた。



畿央大学
理事長
副学長
冬木 正彦氏



畿央大学
教育学習基盤部
部長
大山 章博氏



畿央大学
教育学習基盤センター
助教
宮崎 誠氏



畿央大学
所在地：奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2
開学：2003年
学生数：1929人(2014年5月現在)

ソリューション

新日鉄住金ソリューションズの「CampusSuite」を採用。同社の教務システム「CampusSquare」、同社が開発・運用の実績を持つオープンソースのコース管理システム「CEAS/Sakai」と、グループウェアをセットで導入する。

成果

最新の製品・技術やシステム間連携、クラウド化によって教育学習環境を包括的に高度化することができた。IT部門におけるシステム運用負荷も大幅に軽減。学修支援といった業務にシフトすることが可能になっている。

教務システム、コース管理システムなどの全面刷新を検討

「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」という建学精神に基づいて、「健康科学」「教育」分野で社会に貢献する多数の人材を育成している畿央大学。同大学が学内情報システムに関するランドデザイン「情報環境基本計画」を策定したのは2010年のことである。

同計画では、教育学習環境の高度化に向けて、学生の出入や履修登録・成績管理といった学内の事務を支援する教務システム、学生と教員が個々の授業で効果的な学習・教育を行うために活用するコース管理システム、学内の通信ネットワークやパソコン教室の設備などを全面的に刷新。教務システム、コース管理システム、電子メール/ファイル共有といった学内の主要システムを最新の製品・技術で刷新し、システム連携を行うことを目指した。

主要3システムをセットで導入、システム間の連携も実現

畿央大学は要件をまとめて複数のITベンダーへ提案を依頼。その結果、選択したのが学校の教育支援から事務効率化までに一貫した提案力を持つ新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)の「CampusSuite」である。同製品では、NSSOLの教務システムパッケージ「CampusSquare」、世界の大学で導入実績を持つSakaiを包含するオープンソースのコース管理システム「CEAS/Sakai」に、グループウェア(畿央大学ではマイクロソフトのクラウドサービス「Office 365」)を組み合わせ、学内の教育学習環境を包括的に高度化できる。畿央大学は、CampusSquareのカスタマイズや旧システムからのデータ移行、CEAS/SakaiのバージョンアップとCampusSquareとの連携、Office 365の導入などを経て、2013年9月から新システムの運用を開始している。

教育学習環境を包括的に高度化、IT部門の業務も学修支援へシフト

CampusSuiteにより畿央大学は、学生や教員の教育学習に関する活動を幅広く効果的に高度化することができた。学生がCampusSquareで履修登録を行うとCEAS/Sakaiで個々の授業に関する設定が自動的に行われるほか、Office 365が提供するクラウド電子メール/クラウドストレージ/ビデオ会議機能によって、学生は学外でも予習・復習のレポートを提出したり遠隔講義を受けたりすることができる。

IT部門の運用負荷が軽減したことも大きな成果だ。これによりIT部門は業務を学修支援によりシフトさせることが可能になった。畿央大学は、学生の履修状況や学習プロセスなどを分析して、教員がより適切なアドバイスを行うといった、教育学習支援の次のステップを実現する基盤としてCampusSuiteを活用したいと考えている。

Key to Success

畿央大学が取り組んだ学内の情報システム刷新のベースには、教育学習環境の高度化に向けて策定した「情報環境基本計画」がある。

理事長/副学長で、「CEAS/Sakai」の開発者である冬木正彦氏は「それまでの学内情報システムが、本当に学生や教員のために活用されるものになっていたのかどうかという観点から、タスクフォースを組織して、2010年にあるべき姿をランドデザインにまとめました。当時は、クラウドコンピューティングが普及し始めた時期で、クラウド環境への移行も課題として挙がっていました」と振り返る。

教育学習基盤部 部長の大山章博氏は「ランドデザインで重視したのは、高速化、大容量化、セキュリティを含む高信頼性、コスト削減です。セキュリティについては、クラウド環境への移行を見据え、学内だけでなく、学外のインターネット環境においても高い水準のものを実現したいと考えました」と述べる。

畿央大学がこうした要件を基に選択したのが、教務システム「CampusSquare」、コース管理システム「CEAS/Sakai」、グループウェアを一体的に提供するNSSOLの「CampusSuite」である。

大山氏は選定理由を「これからの教育学習基盤の高度化には、システム間の連携が不可欠になっていきますが、連携に必要な教務システムの技術情報を我々と共有してもよいという積極的な姿勢を示したITベンダーはNSSOLだけでした。また、NSSOLのCampusSquareは、11のモジュールに機能が整理されており、必要なものだけを導入することができます。提案の

際、業務フローを基に、ユーザーの立場でCampusSquareの機能を説明してくれたITベンダーもNSSOLだけでした」と語る。

3システムを導入するプロジェクトを実績豊富なNSSOLが的確に支援

三つのシステムを導入し、クラウドサービスのグループウェアとオンプレミスのシステムを接続するハードルの高いプロジェクトだったが、豊富な実績を持つNSSOLが的確に支援した。

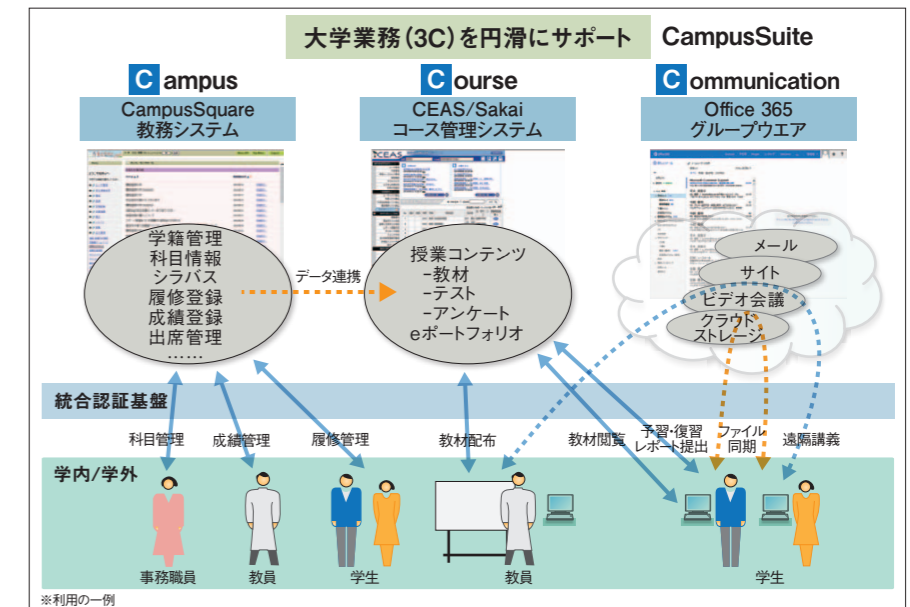
教育学習基盤センター 助長の宮崎誠氏は「CEAS/Sakaiについては既存システムのバージョンアップと新バージョンのCEAS/Sakaiの機能統合を並行して行うなど複雑でしたが、NSSOLが作成したマスタースケジュールによって、我々はプロジェクト

を計画通り進めることができました。プロジェクトで発生した技術的な課題についても、NSSOLと我々が力を合わせて対処することができました」と語る。

大山氏は「CampusSquareの導入に際してはNSSOLが、当大学の事務担当者の多様な要望を適切な技術要素に分解し、きめ細かなカスタマイズを行うことができました。事務担当者は大変満足しています」と語る。

冬木氏は「今回のプロジェクトによって、教務システムとコース管理システムを、本格的に連携させ、教育学習をさらに高度化するための次のステップへ踏み出すことができました。これからはNSSOLはユーザーの視点を持ち、柔軟に教育の現場をサポートするITベンダーとして、当大学を含めた日本全体の教育学習環境の高度化を支援していただければ幸いです」と述べる。

■畿央大学が導入した「CampusSuite」の概要



■コアテクノロジー

教務システム、コース管理システム、授業支援型ユーザーインターフェース、クラウドサービス

■システム概要

- アプリケーション：CampusSquare(教務システム)、CEAS/Sakai(コース管理システム)
- クラウドサービス：Office 365(電子メール、ファイル保管・共有、ビデオ会議ほか)